

気候変動を凌駕する水稲新品種開発と現地展開

- 実施期間：令和4～8年度
- 担当部署：作物部、中山間農研作物・果樹部
- 区分：プロジェクト（農業の気候変動適応プロジェクト）

○研究内容

水稲栽培では、夏季の高温による白未熟粒や、台風や集中豪雨などによる倒伏、穂発芽、病害発生に伴う品質低下や収穫量の減少が課題となっています。

そこで、高温耐性や耐倒伏性に優れ、食味も良く、米卸、生産者から有望視されている「岐系207号」の多収穫、高品質栽培技術の開発を行います。

また、酒造好適米「ひだほまれ」及び糯米「たかやまもち」への穂発芽難遺伝子の導入や、ハツシモ岐阜SLへのいもち病抵抗性遺伝子の導入を進め、気候変動に強い新品種を育成します。

<高温耐性新品種>

夏の高温で発生する白未熟粒（枠線内の白濁粒）が少なく、整粒率が高い。



岐系207号

コシヒカリ



倒伏に強く、品質低下が少ない

岐系207号

コシヒカリ

<オリジナル品種への難穂発芽、耐病性遺伝子導入>

原品種（課題）

- ハツシモ岐阜SL（いもち病耐性）
- たかやまもち（穂発芽）
- ひだほまれ（穂発芽）

導入遺伝子

- いもち病抵抗性
- トビイロウンカ抵抗性
- カドミ低吸収性
- 籾枯細菌病抵抗性 etc.

